

V 2023年度の主要な事業動向

1 2023年度のトピック

① 新コーナーの設置

当館では、NDC（日本十進分類法）に従って資料を配架しているが、ビジネスやティーンズといった、特定のテーマや利用者に対応した資料を集めたコーナーも設けている。2024年3月15日からは、新たに2つのコーナーを設置した。1つめは、4階北東側に設置した、地方行政や地域づくりに携わる方に役立つ情報を集めた「地方行政・まちづくり支援コーナー」である。2つめは、3階ティーンズコーナーの一角に設置した、本県ゆかりの漫画家による、本県をテーマとしている作品を集めた「漫画で愛知コーナー」である。（詳細は「3 来館者へのサービスの状況 ⑤ 各コーナーの状況」参照）

② あいち県民の日・あいちウィーク連携事業

当県が2022年に県政150周年を迎えたことを契機として、11月27日を「あいち県民の日」とする条例が2022年12月23日に施行された。当館では、「あいち県民の日」を含む直前1週間（11月21日から27日）の「あいちウィーク」に、連携事業として愛知県の魅力を発信する企画展示やイベント等を開催した。



展示「あいちの社史」及び展示「あいちゆかりの人物」（11/10～2024/1/10）

- ・企画展示「あいち ゆかりの人物」

11月10日（金）から1月10日（水）まで

- ・企画展示「あいちの社史」

11月10日（金）から1月10日（水）まで

- ・イベント「秋のおはなし会」 11月24日（金）

- ・イベント「環境省レンジャーによるワークショップ 藤前干潟の生きものキャップを作ろう！」

11月24日（金）

- ・イベント「図書館講演会「古典籍の宝庫あいち」 11月27日（月）

（詳細は「IX 資料 2 展示及び講演会等」参照）

- ・臨時開館及び貸出点数の増加 11月27日（月）

③ デジタル化・DX推進に係る取組

当館 Web サイト上にて、24時間365日いつでも簡易な問合せに対応できる AI チャットボットの運用を9月29日（金）から開始した。これは、2022年度ICT活用課題解決支援事業（AICHI X TECH（アイチクロス テック））における実証実験の結果、行政課題の解決に優れた効果が認められたため、次年度から本格導入したものである。（詳細は「4 インターネットを利用したサービスの状況 ⑥ チャットボット」参照）

また、近年、ボーンデジタル資料と呼ばれる、紙媒体ではなくデジタルでのみ発行・公開される資料が増加していることから、ボーンデジタル行政資料の収集・保存を開始し、2月28日（水）から試行で公開開始した。（詳細は「2 図書等の収集 ⑩ ボーンデジタル行政資料」参照）

④ 人事交流

県図書館と市町村立図書館との連携強化及び職員の広い視野と見識の獲得に資するため、3市との間で2週間程度の短期の人事交流を試行実施した。試行の結果、人事交流の効果が認められたため、2024年度から本格実施する。（詳細は「11 市町村立図書館等への支援・サービスの状況 ⑧ 市町村立図書館との人事交流試行」参照）

2 図書等の収集

① 図書

2023年度は、10,523冊の図書を受け入れた（購入：和書5,771冊、洋書34冊、計5,805冊。寄贈：和書4,397冊、洋書195冊、計4,592冊。県労働福祉課等からの管理換え：69冊、貸出文庫用

図書からの受入 57 冊)。購入による受入冊数は、2009 年度の 21,180 冊をピークとして、図書購入費の減少に比例して漸減しており、2023 年度はピーク時の 27%となる 5,805 冊だった。厳しい予算状況の中、拠点図書館として県内市町村立図書館のニーズに応え、併せて県立図書館として特徴的なコレクションを構築するために、「資料収集方針」及び「資料選択基準」に基づき、「ものづくり文化」、「地域」及び「健康・医療」の分野を中心に慎重な選書を行い収集した。

2023 年度末現在での図書蔵書冊数は 1,210,948 冊である (2022 年度末 : 1,201,076 冊 + 受入 : 10,523 冊 - 除籍 : 651 冊)。

② 新聞・雑誌、規格及び加除法規類

新聞・雑誌 2023 年度当初の継続受入資料は、新聞 83 紙、雑誌 1,674 タイトルで、うち新聞 32 紙、雑誌 1,046 タイトルは寄贈によるものである。『日刊工業新聞』電子版 (CD-ROM、2003.4 ~) も所蔵している。他に『名古屋タイムズ』も電子版 (CD-ROM、1946.5~2008.10) を所蔵している。購入雑誌 12 タイトルについて、2023 年度中の休廃刊等により翌年度への継続を中止した。

なお、2023 年 2 月に開始した雑誌スポンサー制度により、2023 年度には 15 のスポンサーから 37 誌の提供を受けた。4 月 14 日より利用者への提供を開始している。

規格 2023 年度も内容の更新を継続した規格は、『日本産業規格』(Japanese Industrial Standards : J I S) 1 タイトルである。

加除法規類 2023 年度当初、内容の更新を継続した加除法規類は『現行法規総覧』、『愛知県法規集』、『名古屋港管理組合例規集』の 3 タイトルである。

③ その他の紙資料 (紙芝居、電話帳、地図 (一枚もの))

紙芝居は 2023 年度新規の受入れは 16 点で総数は 3,545 点。全国の電話帳は 2023 年度新規に 589 冊を受け入れた。国土地理院発行の地形図や、都市地図など一枚ものの地図は、2023 年度新規に 444 点を受け入れた。

④ 視聴覚 (Audio Visual : AV) 資料

教養や文化面で資料価値の高い資料を中心に収集しており、2023 年度は DVD 222 点、CD 263 点を受け入れた。このうち、文化財の記録映像など 164 点が寄贈によるものである。2023 年度末現在での所蔵総数は、DVD 始め映像資料 6,562 点、CD 始め録音資料 18,539 点である。

⑤ マイクロ資料 (マイクロフィルム、マイクロフィッシュ)

2022 年刊行分の『中日スポーツ』について、マイクロフィルム 12 リールを受け入れた。

⑥ 電子資料 (CD-ROM 等)

2023 年度は受け入れはなかった。2023 年度末現在、『愛知県議会会議録 明治 26 年』(DVD-ROM) 始め 1,325 タイトル 1,411 枚を所蔵している (なお、「電子資料」には、図書等の付録であるものは含んでいない)。

⑦ 電子書籍

2023 年度は 292 冊 (うちオーディオブック 5 冊) を購入し、2023 年度末現在、6,403 冊 (うちオーディオブック 116 冊) の閲覧サービスを提供している。

⑧ 視覚障害者用資料

2023 年度に視覚障害者用に製作した録音図書デイジー (Digital Accessible Information System : DAISY ; アクセシブルな情報システム) の数は 23 タイトルである。購入 6 タイトル、寄贈 16 タイトルを含め 45 タイトル増加し、2023 年度末現在のデイジーの所蔵総タイトル数は 1,202 タイトルとなった。このほか 2023 年度に、点字図書 10 タイトル、録音図書 (カセット) 1 タイトル、マルチメディアデイジー 11 タイトルが増加した。

⑨ 商用データベース

レファレンス等の業務及び利用者の閲覧用に、次の 7 種の商用データベースを導入し、情報提供の高度化、迅速化を図っている。

名称	内容
「日経テレコン 21(図書館パック)」	日経 4 紙 (『日本経済新聞』朝・夕刊、『日経産業新聞』、『日経流通新聞(MJ)』、『日経金融新聞』) の記事検索のほか、企業情報や人事情報などを検索可能 *収録範囲：1975 年～ (一部記事は、見出しのみ、一部新聞は刊行中止のため、過去記事のみ)
朝日新聞記事データベース「朝日新聞クロスサーチ」	1879 年～1999 年に『朝日新聞』に掲載された新聞記事の紙面イメージ検索と、1984 年 8 月以降の『朝日新聞』記事全文検索が可能
「中日新聞・東京新聞記事データベース」	『中日新聞』朝・夕刊 (1987 年 4 月～)、『東京新聞』朝・夕刊 (1997 年 4 月～) それぞれの最終版の主要記事を蓄積。中部地方各県版、愛知県、三重県、岐阜県内の全地方版 (1996 年 1 月～) をカバー
毎日新聞記事データベース「毎索」	1872 年創刊号から現在までの『毎日新聞』に掲載された新聞記事を日付やキーワードで検索可能。また、創刊号から 1999 年までの紙面も収録
読売新聞記事データベース「ヨミダス」	1986 年 9 月から読売新聞に掲載された新聞記事をキーワード、全文及び日付を指定して検索可能
「TKC ローライブラリー」	判例、法令を検索可能。1875 年の大審院判例から今日までに公表された判例を、網羅的にフルテキストで収録。また、日本の現行法令も収録。
「官報情報検索サービス」(官報インターネット版)	官報 (本紙、号外、政府調達公告版、資料版、目録) の日付・記事検索が可能。本文も収録 *収録範囲：1947 年 5 月 3 日～当日分まで

「朝日新聞クロスサーチ」、「中日新聞・東京新聞記事データベース」、「毎索」、「ヨミダス」及び「官報情報検索サービス」は 2 階、「日経テレコン 21」及び「TKC ローライブラリー」は 4 階の専用端末で利用に供している。

⑩ ボーンデジタル行政資料

近年、ボーンデジタルと呼ばれる、紙媒体ではなくデジタルでのみ発行・公開される資料が増え、必要な資料が収集できない場合などがあることから、ボーンデジタル行政資料の収集・保存を開始し、2024 年 2 月 28 日 (水) から試行で公開した。2023 年度末時点で 103 冊を公開している。

3 来館者へのサービスの状況

① 入館者、個人貸出

2023 年度の入館者数は 411,533 人 (前年度比 99.5%)、1 日平均の入館者数は 1,459 人 (前年度比 99.5%) である。2023 年度末現在の有効登録者数は 37,075 人 (2023 年度新規登録者 11,747 人) で、郵送による利用カード発行は、44 人 (前年度 31 人) の申込みがあった。また、2022 年 1 月 26 日 (水) から開始したオンライン利用登録者数は 1,011 人 (前年度 961 人) であった。

図書等の個人貸出点数は、334,520 冊・点 (前年度比 95.9%)、1 日平均は 1,186.2 冊・点 (前年度比 95.9%) であり、資料への予約数は 40,433 冊・点 (前年度比 91.8%) で、このうち利用者自身によるオンライン予約は 37,082 冊・点 (前年度比 92.0%) であった。

② 児童図書室のサービス

2023 年度末現在、開架に図書 36,150 冊、閉架も含めると 91,329 冊、雑誌 (児童向け以外含む) は全て開架で 35 タイトルを所蔵している。児童図書の貸出冊数は、76,965 冊 (前年度比 93.1%)。

刊行物では、新着図書を紹介する『新しく入った本』(月刊) とおすすめ本を紹介する『児童図書室だより』(季刊) を発行した。

テーマ展示では、「松岡享子・山脇百合子を偲んで」、「2022 年をふりかえって」、「災害に備える」、「クリスマスの本」、「干支 (辰) の本」、「学校の本」など 2 か月ごとにテーマを変えて関連図書の



秋のおはなし会(11/24)

展示と貸出を行った。

「おはなし会」については、あかちゃん向けを 23 回（参加者 319 人）、幼児・小学生向けを各 23 回（参加者 451 人）実施した。

また、あいち県民の日・あいちウィーク連携事業として職員が読み手となる「秋のおはなし会」を開催し、12 名の参加があった。

③ 視覚障害者資料室のサービス

視覚障害者への対面朗読は、オンラインを含めた利用者数が延べ 126 人（前年度比 96.2%）、対応した朗読者数が延べ 80 人（前年度比 89.9%）、朗読時間数が 200.58 時間（前年度比 103.8%）であった。

視覚障害者資料の貸出数は、自館資料の貸出が、個人 527 タイトル（前年度比 124.6%）で、他施設から借り入れた資料の提供数は 2,892 タイトル（前年度比 76.7%）であった。自館資料の他施設への貸出は、248 タイトル（前年度比 102.1%）であった。

国立国会図書館のデータ送信事業として 2024 年 3 月までにアップロードした資料は 758 点で、2023 年 4 月から 2024 年 3 月のダウンロード数は、9,060 件であった（2024 年 4 月国立国会図書館からの報告による）。

当館が加入している視覚障害者等への情報提供ネットワークシステム「サピエ」は、点字・録音図書施設の施設間相互貸借のための書誌データベースのほか、電子図書館の機能もあることから、利用者個人の「サピエ」への直接利用もサポートしている。国立国会図書館とサピエとは連携しており、当館が国立国会図書館へアップしたデータも、サピエからダウンロードすることができる。2023 年度は新たに当館を経由して 6 人が登録し、総数は 84 人となった。

障害のため来館でのご利用が困難な方のために、郵送による資料の貸出を行っている。2023 年 9 月から対象者を拡大し、新たに精神障害者（精神障害者保健福祉手帳 1 級所持者）の方もご利用いただけるようになった。貸出冊数は、742 点（前年度比 117.4%）であった。

④ AV 室のサービス

視聴覚資料（CD、DVD など）の貸出は 51,217 点（前年度比 92.9%）。

AV 室展示として、「追悼 坂本龍一展」、「カーペンターズと'70 年代洋楽ヒット」、「池波正太郎を聴く」、「ハリウッド映画は好き?」、「クリスマス展」などテーマを決めて定期的に AV 資料（図書も含む）の展示を行った。

所蔵資料を上映する名画鑑賞会は、感染症拡大防止のため一時休止していた。2022 年度より一部再開し、2023 年度は、AV 室展示「ハリウッド映画は好き?」関連イベントとして、5 階大会議室にて 4 回上映会を行った。



AV 室展示「ハリウッド映画は好き?」
(11/10~2/28)

⑤ 各コーナーの状況

県立図書館としての役割や県行政を推進する観点から、次のテーマについて集約したコーナーを設置している。

ア 地域資料

愛知県の人・事物について書かれた資料、県内行政機関の刊行物、その他本県に関する資料を収集している。2023 年度末現在、開架に図書 41,931 冊、受入継続雑誌 311 タイトル、閉架も含めると図書 89,976 冊（前年度比 1,456 冊増）、雑誌 1,373 タイトル（前年度比 8 タイトル増）を

所蔵している。

また、地域資料について来館者の方に知っていただくため、地域資料の展示をコーナーで実施している。2023 年度には「愛知が遭遇した震災―濃尾地震―」「名古屋で始まったセンバツ高校野球」というテーマで展示を行った。

イ ビジネス情報コーナー

起業の方法や業界情報、仕事術などビジネスに役立つ内容の資料、就職関係の資料を集約したビジネス情報コーナーを2005年3月に開設し、2016年度にはその一角に社史コーナーを設けた。関連資料の収集を継続しており、2023年度末現在、図書約5,800冊(うち社史は約2,500冊)と受入継続雑誌28タイトルを配置している。

また、2023年度は企画展示「想像力、無限大～高校生ビジ・グラにチャレンジ!～」、「事業承継・起業を応援します!」を日本政策金融公庫他と共催で実施した。後者の展示期間中には、関連セミナー「モヤモヤがスッキリ!売れる!伝わる!ネット集客」を開催し46人の参加があった。さらに、「あいち県民の日」に関連した展示では、「あいちの社史」を紹介し展示、貸出した。

ウ ティーンズコーナー

中学生・高校生に読書により親しんでもらうため、ティーンズコーナーを2005年3月に開設した。2023年度末現在約7,500冊を配置している。

ティーンズコーナーのおすすめ図書を紹介してもらうために、利用者自身にイラストなどで飾ったカードを作成してもらう参加型企画「てこぼん」(ティーンズコーナーポイント Get 大作戦!)を継続的に開催し、利用促進を図っている。2023年度は夏休み期間に、利用者の投票により応募作の中から大賞を選ぶ「第12回てこぼん大賞」を実施した。

エ 多文化サービスコーナー

多文化共生社会への意識づくりと外国人県民の方への日本語教育等を支援するため、2006年3月に中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語等で書かれた図書や日本語学習用の図書を備えた多文化サービスコーナーを開設した。2019年度には、コーナー内に外国人児童のための「絵本コーナー」(2023年度末現在、約570冊)を設置した。2023年度末現在、約5,850冊を配置しており、文学や日本語学習用の図書を中心として安定した利用が続いている。

オ 東三河コーナー

「愛知県図書館と東三河地域の市町村及び観光団体との地域振興に係る情報発信の連携・協力に関する協定」に関わる団体のほか、県東三河総局、東三河広域連合等と連携し、東三河の観光情報を中心に最新パンフレットや地域情報誌(タウン誌)、イベントのチラシなど旬の情報を提供している。2023年度には企画展示「第12回穂っとネット東三河フォトコンテスト入賞作品展」を実施した。



東三河コーナー

カ 観光情報コーナー

県観光振興課、東三河8市町村を除く46市町村の観光関係当局及び地域の観光協会等と連携し、東三河を除いた愛知県全市町村の観光情報等を提供することを目的として、2018年11月に開設した。主に観光パンフレットや地域情報誌(タウン誌)、イベントのチラシなどを提供している。2023年度は、企画展示「二度目の旅は図書館から～“天下統一はじまりのまち”清須を歩く」、講演会「模型で見る弥生時代の暮らし」を実施した。

キ 地方行政・まちづくり支援コーナー

地方行政や地域づくりに携わる利用者が基本的な事項や流れをワンストップで入手できることを目的として、2024年3月に開設した。「地方行政、まちづくりの概論、総論」のほか、関連項目として「観光」、「文化・芸術・スポーツ」、「中山間地域・離島振興」、「子育て、少子高齢社会」、「多文化共生」の各分野の資料約200冊と、関連雑誌7誌を配置している。地域づくりの基

本的な指針となる愛知県の各施策に関しては、貸出ができる資料を配置している。また、PRのため、3月15日（金）から4月10日（水）まで、1階エントランス Yotteko（ヨッテコ）で展示「はじめまして。『地方行政・まちづくり支援コーナー』です。」を開催した。

ク 漫画で愛知コーナー

国際的に高く評価されている日本のサブカルチャー文化「漫画」で表現された愛知に対する県民の関心やニーズに応えることを目的として、愛知ゆかりの漫画家が「愛知を舞台や題材として描いた漫画作品」を集めたコーナーを2024年3月に開設した。開設時は19冊でスタートした。また、PRのため、3月15日（金）から5月8日（水）まで、3階特設コーナーにて、展示「漫画で愛知コーナー」開設記念ミニ展示「～愛知の漫画作家が描く愛知～」を開催した。



展示「はじめまして。『地方行政・まちづくり支援コーナー』です。」(3/15～4/10)

⑥ 情報提供サービス

ア レファレンス

レファレンス件数は26,698件（前年度比103.8%）であった。内訳はカウンター等でのレファレンスが19,197件、電話が7,163件、文書（メール、ファックスによるものを含む。）によるものが338件であった。

国立国会図書館が提供する「レファレンス協同データベース事業」にも2004年から参加しており、2023年度末現在、461件のレファレンス事例を登録・公開している。

イ 愛知県図書館調べ方ガイド

資料や情報の探し方について、テーマごとに案内する「調べ方ガイド」（A4判、両面）を発行している。館内で配布するとともに、当館のWebサイトでも公開している。2023年度中には「新聞記事の探し方」、「官報の調べ方」及び「白書を調べる」の内容を改訂した。2023年度末現在22点の「調べ方ガイド」を公開している。

ウ インターネット情報の提供等

2023年度の館内でのインターネット情報の閲覧用端末や、国立国会図書館が図書館向けに提供するサービス及び商用データベース等を利用する専用端末の利用人数は、延べ3,617人（前年度比77.7%）であった。それぞれの詳細は次のとおりである。

㊦ **インターネット情報** 当館2階で提供しているインターネット情報の閲覧用端末の利用人数は、2023年度1,614人（前年度比64.5%）であった。なお、インターネット情報の閲覧用端末は、館内でのフリーWi-Fi運用開始等を踏まえ2022年3月の整理休館後3台から1台にして運用していたが、2023年7月の整理休館後より2台にして運用している。

㊧ 国立国会図書館が図書館向けに提供するサービス

国立国会図書館デジタルコレクション 国立国会図書館のデジタル化資料のうち、インターネットで一般公開されておらず、絶版等の理由で入手困難な資料、約180万点が2階の専用端末で閲覧・複写できる（2015年5月サービス開始）。2023年度の利用人数は延べ253人（前年度比84.9%）であった。

歴史的音源（れきおん） 歴史的音源は1900～1950年頃のSP盤等のデジタル化音源で、インターネット公開している音源約6,000点と、参加図書館に限定して提供される資料約43,000点を2階の専用端末で聴取できる（2012年3月サービス開始）。2023年度の視聴タイトル数は延べ615タイトル（前年度比389.2%）であった。

㊨ **商用データベース等** 当館の2階及び4階の専用端末で提供している商用データベースの2023年度の利用人数は1,686人（前年度比92.7%）であった。（詳細は「2 図書等の収集 ㊩ 商用データベース」参照）また、『名古屋タイムズ』及び『日刊工業新聞』電子版の利用人

数は 51 人（前年度比 134.2%）であった。このほか、2022 年度にデジタル化を行った『愛知教育』、『広小路文化』、『帝国菓子館新聞』も 2023 年 8 月より 2 階の端末で提供しており、年度末までの利用人数は 13 人であった。

⑦ フリーWi-Fi の運用

無料公衆無線 LAN サービス「Aichi_Free_Wi-Fi」を全館で運用している。2023 年度の利用は延べ 121,257 回であった。

⑧ 企画展示・講演会等の実施

利用者と資料をつなぎ、当館の利用を促進するとともに、図書館と資料を知ってもらうため、資料展示や関連講演会等の企画を実施している。2023 年度には、1 階エントランス Yotteko



「文化芸術に関する連続講座 2023」第 3 回
「酒器の玉手箱-日本のうつわ使いは
こんなに面白い」(1/14)

（ヨッテコ）等を活用し、資料の展示を 80 回実施した。

講演会では、県美術館、県陶磁美術館と連携した「文化芸術に関する連続講座」を 3 回（参加者 計 106 人）、学術や技芸の第一線を一般向けに解説する「リベラルアーツカフェ」を 2 回（参加者 計 107 人）実施した。そのほか、「認知症サポーターフォローアップ講座」（参加者 39 人）、あいちウィーク・あいち県民の日連携図書館講演会「古典籍の宝庫あいち」（参加者 83 人）、「金城学院高等学校ハンドベルクワイアによるクリスマスコンサート in 愛知県図書館」（参加者約 120 人）、「新聞記事データベース使い方講座」（参加者 62

人）を開催した。また、「あいち伝統芸能はじめてフェス連携イベント」に参加し、オアシス 21 においてブックトーク「はじめての古典芸能」を行った。（詳細は「IX 資料 2 展示及び講演会等」参照）

4 インターネットを利用したサービスの状況

① Web サイトのアクセス状況

当館では Web サイトを 1996 年 10 月 1 日に開設、Web サイトでの蔵書検索を 2001 年 3 月 6 日に開始した。

2023 年度の当館 Web サイトのトップページへのアクセス数は 772,905 回（前年度比 64.0%）であった。また、愛知県図書館の蔵書検索ページのアクセス数は 3,064,972 回（前年度比 129.6%）であった。トップページのアクセス数に比して高い数値を示していることから、トップページを経ずに直接蔵書検索を行う利用者が相当数いると考えられる。携帯サイトの総ページビューは 12,303 ページ（前年度比 77.2%）であった。

② 横断検索「愛蔵くん」の利用状況

横断検索「愛蔵くん」には、2023 年度末現在、愛知県図書館、東海北陸県立図書館（5 館）、県内市町村立図書館・公民館図書室（50 館）及び専門図書館（2 館）、その他の図書館（1 館）が参加しており、横断検索のアクセス数は 487,671 回（PC からのアクセスのみ。スマートフォン等携帯端末を除く。）（前年度比 85.7%）であった。

③ Web サイトでのデジタル化資料の提供

当館が所蔵する貴重な地域資料の効率的な利用のため、デジタル化を 2003 年から順次推進している。2023 年度末現在、「絵図の世界」（758 点）、「絵はがきコレクション」（108 セット）、「貴重和本デジタルライブラリー」（242 タイトル）、「画像コレクション」（39 点）の 4 コレクションを Web サイトに公開している。

当館では、引き続きデジタル化及び書誌データの整備を進めており、2023 年度は「貴重和本デジタルライブラリー」6 タイトル、「画像コレクション」10 点の整備が完了した。今後も順次タイトルの増加を図っていく。

④ ナクソス・ミュージック・ライブラリー

音楽配信サービス「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」（2014年4月から開始。クラシックを中心として約200万曲以上、同時20アクセス）の2023年度の利用件数は、総計19,998件（前年度比92.8%）であった。

⑤ 電子書籍サービス

2023年度のアクセス数は64,558件（月平均5,380件、前年度比94.1%）であった。

⑥ チャットボット

2023年9月29日から運用を開始した。運用開始から2024年3月31日までの返答回数は5,811回であった。

5 遠隔地返却制度

愛知県図書館で借りた資料を地元の図書館で返却できる遠隔地返却制度（2012年度開始）の対象自治体は、東三河地区（豊橋市、豊川市、蒲郡市、新城市、田原市、設楽町、東栄町、豊根村）、西三河地区（岡崎市、碧南市、豊田市、安城市、西尾市、高浜市、幸田町）、知多地区（半田市、常滑市、阿久比町、南知多町、美浜町、武豊町）の21市町村で、2023年度の利用は2,319冊・点（前年度比105.7%）であった。

6 館内職員研修の実施

2017年度から、県政の一端を担う県図書館職員の養成を目的に、毎月第2木曜日の休館日を中心に開催している。当館職員が講師を務めるほか、研修内容に即した講師を招いて実施している。2023年度の実施状況は次のとおりである。

内容	実施日	参加者
図書館の複写サービスにおける注意事項について	5月11日（木）	56人
図書館の効果的な広報について	6月8日（木）	61人
コンプライアンス（グループごとに実施）	6月中	一人
令和5年度図書館司書専門講座受講報告	7月13日（木）	42人
愛知県公立図書館長協議会2023年度第1回研修会の動画視聴	9月中	40人
県公文書館について	10月12日（木）	48人
防災訓練	11月9日（木）	60人
愛知図書館協会レファレンスサービス研修拡大講座①の動画視聴	11月中	40人
市町村立図書館への派遣研修報告	12月14日（木）	50人
地域資料研修	1月11日（木）	51人
図書館でのトラブル対策	2月8日（木）	58人
イベント広報のためのポスター・チラシ作成法	3月8日（金）	32人
愛知県における図書館事業の沿革	3月14日（木）	42人

計13回 参加者580人

7 職場体験・インターンシップ・図書館実習及び見学の受入れ

中高生等の職場体験・インターンシップの受入れ8件25人、図書館関係者、学生等の見学19件300人、合計27件325人を受け入れた。

8 図書館を応援していただく取組

① 図書館ボランティア

ア 図書館サポーター

2023 年度には新たな「おはなし会サポーター」の募集を行い、登録は 30 名となった。毎月第 1 日曜日、第 3 土曜日、第 2・4 水曜日に子ども向けの絵本の読みきかせや紙芝居、わらべうた、ストーリーテリングなどの実演を行っている。

「資料補修サポーター」には、2 名の登録があり、破損・汚損した図書の補修を行った。

イ 朗読協力員

2023 年度の「朗読協力員」の登録は 36 名で、対面朗読（予約制）や利用者のリクエスト等に応じるための録音図書の作成などの活動を行った。

② 寄附等

ア 「あいち Book サポーター」制度

2022 年 2 月から開始した「あいち Book サポーター」には、団体 1 件、個人 6 件から合計 2,235 千円分のお申し出があり、図書等 661 冊を寄附していただいた。

イ 雑誌スポンサー制度

2023 年 2 月から開始した「愛知県図書館雑誌スポンサー制度」により、2023 年度末までに 15 のスポンサーから 37 誌の提供を受けた。

9 施設・設備の整備及び更新

開館後 30 年以上が過ぎ、設備の老朽化が進んでいること、また、快適な図書館の利用環境を整備する観点から、簡易な修繕を随時行っているほか、機器の取替が必要な修繕は施設設備整備計画を立て、予算化されたものから順次実施している。

2023 年度は、固定書架（地下 2 階）の増設、書籍搬送設備の制御用コンピュータを更新した。

10 刊行物、広報

① 刊行物

当館の事業報告書である『事業年報』（1992～）の 2023 年度版を 11 月に 500 部発行した。また、当館のサービスや所蔵資料の活用法などを紹介する館報『あゆち』（1991～、創刊当初から 2005 年までの誌名は『年魚市』）第 24 号（特集：新聞と雑誌～愛知の今と昔を知るツール～）を 11 月に 6,000 部刊行した。

それぞれ冊子版を県内外の公共図書館や関係機関等に配布するとともに、電子版を Web サイトに掲載している。『あゆち』については、館内で来館者にも配布している。



あゆち第 24 号「新聞と雑誌～愛知の今と昔を知るツール～」

② 広報

ポスターやチラシを使い企画展示の情報等当館の活動について広報するほか、マスメディアへも情報提供を積極的に行っている。2023 年度は、ブロック紙及び全国紙 5 紙（中日、朝日、毎日、読売、日経の各紙）に 18 回、その他地方紙やタウン誌に 4 回、テレビ・ラジオに 8 回等、合計 30 回当館の活動等が紹介された。（詳細は「IX 資料 3 広報の結果」参照）

また、当館の Web サイト（<https://www.aichi-pref-library.jp/>）では、利用案内、企画展示の情報、館内の案内を始め様々な情報を掲載し、随時更新している。2011 年 3 月から開館 20 周年にあわせ Twitter（現「X」）の公式アカウントを開設し、2017 年度からは Facebook、メールマガジンの配信を加えた。2020 年 5 月からは YouTube に愛知県図書館チャンネルを開設し、動画配信も開始した。

11 市町村立図書館等への支援・サービスの状況

① 協力貸出の実施

2023年度の当館から県内・県外の図書館等への協力貸出数は、全体で15,759冊・点（前年度比101.0%）であった。このうち、雑誌の協力貸出（発行から1年以上経過した雑誌のバックナンバーを借受け館での館内閲覧に限り2週間貸出）冊数は62冊（前年度比100.0%）であった。

② 相互貸借の支援

2023年度の当館を経由した東海・北陸地区（岐阜県、三重県、富山県、石川県、福井県及び本県）内の相互貸借冊数は、全体で43,055冊（前年度比96.7%）であった。このうち県内図書館同士の相互貸借は40,531冊（東海・北陸地区全体の94.1%）であった。

③ 貸出文庫の実施

図書館未設置町村に図書や紙芝居を貸与する貸出文庫を実施している。図書500冊を上限に1年間貸与する基本図書と、図書80冊、紙芝居7組を3か月間貸与する流通図書の2種類を組み合わせ運用しており、2023年度は図書館未設置7市町村のうち4町村（南知多町、設楽町、東栄町、豊根村）6施設に計2,046冊・組を貸与した。

④ 県立学校（図書館）の支援

学校での読書活動及び学習活動支援のため貸出サービスを実施している。2017年度からは、県立学校に対して地元の市町村立図書館を経由する方式での貸出サービスを開始した。サービス対象校については順次拡大し、2023年度末には28校となった。2023年度中は、このうち17校に対し2,154冊を、この方式で貸出した。また、2023年5月10日（水）からは、課題解決学習を始めとした探究活動や修学旅行等の事前学習の際に幅広く活用していただけるテーマごとの学校貸出用セットを用意し、県立学校等への貸出しを行った。

⑤ あいちラストワン・プロジェクト

県内で1図書館のみが所蔵する希少資料（ラストワン）を将来にわたって確実に保存し、利用できるよう県内市町村立図書館と協同して取り組んでいるプロジェクトで、2013年1月から試行し、2014年10月から実施している。県内の図書館を設置する47市町村全てと常滑市が参加しており、2023年度は、市町村立図書館において保存が困難とされた1,651冊の希少図書の県図書館への搬入を許可し、順次整理している。

⑥ 図書館職員・関係者向け研修の実施

県立図書館として、図書館職員の資質向上を目的に、当館が単独で、また当館に事務局を置く愛知県公立図書館長協議会及び愛知図書館協会等と連携・協力して、県内の図書館職員・関係者向けに研修を実施している。2023年度に実施した研修は次のとおりである。

ア 図書館協力担当者新任研修会

協力貸出・相互貸借業務を新たに担当する職員を対象とした研修で、例年5月から6月にかけての時期に愛知県図書館で開催している。2023年度は5月26日（金）に開催し、56人が参加した。

イ 愛知県公立図書館長協議会及び愛知図書館協会の研修

愛知県公立図書館長協議会が実施する研修は、公立図書館職員としての知識や技術の習得を目的に、公開講座方式のほかワークショップなど参加型のものを、ヤングアダルト（YA）サービス連絡会による研修を含め実施している。また、愛知図書館協会が実施する研修は、実務への応用を主眼に、講義と演習を組み合わせた連続講座形式のものも実施している。例年実施している児童サービス研修は集合研修により、連続講座のほか講演形式の拡大講座を愛知県公立図書館長協議会と共催で実施した。また、レファレンスサービス研修は、集合研修及び録画配信の拡大講座のほか、演習をオンライン講義や課題添削などにより実施した。

愛知県公立図書館長協議会の研修

内容（講師）	開催時期と形式	参加者
第1回：「常識のカバーをはずそう～図書館員の想いが届く図書館づくり」（浅野隆夫氏） 講演及びワークショップ	6月9日（金） （集合研修＋録画配信）	65人 集合25人 配信40人
第2回：「本の力・子どもの底力～本で子どもの成長を応援しよう」（尾野三千代氏） ※愛知図書館協会と共催（愛知図書館協会児童サービス研修拡大講座）	6月22日（木） （集合研修）	108人
第3回：テーマ「地域を巻き込む図書館イベント」 講演：「ブックバス・イン・愛大」の事例から考える図書館での場づくり」（上田謙太郎氏） 講演：「地域図書館におけるソーシャルインクルージョンの試み～利用者との出会いから生まれた市民協働事例」（藤坂康司氏）	9月13日（水） （集合研修＋録画配信）	65人 集合23人 配信42人
YAサービス連絡会による研修※ テーマ「公共図書館でのYAサービス」 講演：「大阪府立図書館におけるヤングアダルトサービスの取組について」（大澤潤氏） 情報・意見交換会 ※愛知県公立図書館長協議会に設置されたヤングアダルト（YA）サービス連絡会による研修	11月22日（水） （集合研修＋講演のみ録画配信）	50人 集合29人 配信21人
新任者研修 ワークショップ形式によるフォローアップ研修	1月26日（金） （集合研修）	31人
第4回：テーマ「読書バリアフリー」 講演：「読書バリアフリーとこれからの図書館の役割」（相羽大輔氏） 事例報告：「それは、ソーシャルデザインだった。～読書会「よむ・きく・はなす」のこと」（中田義雄氏）	2月9日（金） （集合研修＋録画配信）	75人 集合25人 配信50人

参加者 394人

愛知図書館協会の研修

内容（講師）	開催時期と形式	参加者
児童サービス研修（連続講座） 児童サービスに必要な知識と技術に関する講義と演習（神谷美恵子氏、万年真衣氏、金子愛氏、児玉陽子氏、野々川佳代氏、小此木ひとみ氏、道山由美氏、川島桂子氏、杉山郁子氏）	6月22日（木） 7月7日（金） 9月8日（金） 10月26日（木） （集合研修）	12人
児童サービス研修（拡大講座） 講演：「本の力・子どもの底力～本で子どもの成長を応援しよう」（尾野三千代氏） ※愛知県公立図書館長協議会と共催（愛知県公立図書館長協議会第2回研修）	6月22日（木） （集合研修）	一人 （共催のため）
児童サービス研修（ステップアップ講座） 課題添削と対面講義を組み合わせた講座 「子どもの本の紹介文の書き方」（川上博幸氏）	9月～12月 講義1回 （課題添削＋対面講義）	10人

内容（講師）	開催時期と形式	参加者
レファレンスサービス研修（拡大講座①） 講演：「“見せていくレファレンス手法”をもとにしたレファレンス・インタビューの初動対応」（齊藤誠一氏）	9月27日（水） （集合研修＋録画配信）	112人 集合29人 配信83人
レファレンスサービス研修（拡大講座②） 講演：「「レファ協」データベースの事例にみる『名古屋叢書』の活用について」（山田久氏）	10月27日（金） （集合研修＋録画配信）	91人 集合26人 配信65人
レファレンスサービス研修（演習） 課題添削とオンライン講義を組み合わせた通信講座：「医療・健康情報のレファレンス」（中島ゆかり氏）、「芸術分野のレファレンス」（山本宗由氏）	10月～12月 講義2回 （課題添削＋オンライン講義）	16人
資料保存研修 講義と実習を組み合わせた研修 「本の構造と自館でできる修理の実践」（田中稔氏）	2月2日（金） （集合研修）	40人
拡大講座 テーマ「発達障害への理解」 講演：「発達障害の理解と体験」（笹原絵美氏ほか） ワークショップ	1月19日（金） （集合研修＋録画配信）	77人 集合24人 配信53人
IT研修 講演：「生成AIと図書館を概観する」（岡部晋典氏）	3月7日（木） （集合研修＋録画配信）	100人 集合35人 配信65人

参加者 458人

⑦ 会議の開催、講師の派遣及び図書館訪問

ア 図書館協力担当者会議及び貸出文庫担当者会議の開催

県内市町村立図書館及び公民館図書室等の担当者による連絡、調整及び意見交換のための会議を実施している。例年2月から3月頃に開催しており、2023年度は3月1日（金）に開催した。

イ 講師の派遣及び図書館訪問

2023年度は、県内外で実施された図書館や関係団体が主催する研修会等へ、講師や委員として当館から計18件、職員21人（前年度、20件、28人）を派遣した。また、情報交換や意見聴取のために延べ25人（前年度23人）の当館職員が市町村立図書館を訪問した。

⑧ 市町村立図書館との人事交流試行

県図書館と市町村立図書館との連携強化及び職員の広い視野と見識の獲得に資するため、豊明市立図書館（県・市相互の派遣、各1名）、豊川市中央図書館（市から県への派遣、1名）、知立市図書館（県から市への派遣、1名）との間で2週間程度の短期の人事交流を試行実施した。試行の結果、人事交流の効果が認められたため、2024年度から本格実施することとしている。

VI 県内公共図書館の動向と関係機関・関係団体

1 県内公共図書館の動向

① 図書館の設置

2024年4月1日現在の県内の図書館設置市町村は47（37市9町1村）、未設置市町村は7（常滑市、豊山町、大治町、南知多町、設楽町、東栄町、豊根村）で、図書館設置率は87.0%（47/54市町村）である。江南市立図書館は、2023年4月1日に布袋駅東複合施設内に移転開館した。また、高浜市立図書館が、2023年3月31日をもって、「高浜市やきものの里かわら美術館」及び「いきいき広場」への図書館機能移転のため休館した。「かわら美術館」は2023年4月1日に「高浜市やきものの里かわら美術館・図書館」に名称変更し、図書館機能については、7月22日にオープンした。

② 図書館の運営

県内で図書館業務に指定管理者制度を導入している公共図書館は全 95 館(分館含む)中 31 館で、その内訳は図書館業務全般への導入が 27 館、施設管理のみ導入が 4 館(当館含む)である。また、図書館設置自治体(47)のうち、1 県 1 市(2 館)が首長部局の所管する図書館で、5 市(10 館)では、地方自治法に基づく補助執行により、首長部局が図書館の運営を担当している。

2 関係機関

愛知県教育委員会 社会教育及び学校教育に関する事務事業を所管していることから、公共図書館・学校図書館に関係する次の事業に当館が協力した。

① 新任図書館長研修

新任の公立図書館長を対象に文部科学省等が主催する研修。インターネット配信により実施されており、受講者が各所属でオンラインにより受講している。2023 年度は 9 月 20 日(水)～9 月 22 日(金)の 3 日間実施され、県内の新任図書館長が受講した。

② 県立高等学校司書教諭研修会

学校現場で読書活動を担当する司書教諭のための研修会。2023 年 10 月 6 日(金)に当館 5 階の大会議室で開催された。当館は会場を提供するほか、講師として職員(2 人)を派遣し、YA サービス等について講義を実施した。参加者 37 人。

③ 愛知県子供読書活動推進事業

愛知県子供読書活動推進事業として開催している、愛知県子供読書活動推進大会、高校生ビブリオバトル愛知県大会及び中学生ビブリオバトル愛知県大会に会場を提供した。高校生ビブリオバトル愛知県大会の予選及び中学生ビブリオバトル愛知県大会は、10 月 22 日(日)に当館 5 階の大会議室・中会議室で開催された。愛知県子供読書活動推進大会及び高校生ビブリオバトル愛知県大会の決勝は、11 月 3 日(金・祝)に当館 5 階の大会議室で開催され、当日は、予選を勝ち抜いた高校生 6 人によるビブリオバトルの決勝が行われた後、松竹芸能株式会社所属お笑い芸人兼書店員のカモシダせぶん氏による講演会が開催された。当館は、図書の展示、当館職員による「愛知県図書館の紹介」を行い、運営に協力した。参加者 73 人。

当館は、以上のような県教育委員会の学校図書館振興や子供読書活動推進に係る事業に協力するほか、高卒資格を取得していない方などのために学び直しの機会を提供する県教育委員会の「若者・外国人未来応援事業」にも、生涯学習の場と機会を提供するという図書館の立場から、会場を提供するなど協力している。

3 関係団体

① 愛知県公立図書館長協議会

愛知県公立図書館長協議会は、1968 年、県内公立図書館相互の連絡と図書館活動の推進を図ることを目的に設立された。2024 年 4 月 1 日現在 69 館(図書館設置の県市町村及び名古屋市分館)が加入しており、図書館業務に関する研修会、調査等の事業を実施している。同協議会には、ヤングアダルト(Young Adult: YA)サービスに関する情報を広く収集し周知することを目的とした YA サービス連絡会と、公立図書館のネットワークに関する諸問題を検討することを目的とした図書館ネットワーク研究会が設置されている。

2023 年度、YA サービス連絡会では、例年開催している図書館職員向け研修会を集合研修及び録画配信で実施するとともに、YA 向けブックガイド『ティーンのための Aichi Librarians' Choice A・L・C(あるく)』第 11 号を作成、公開した。また、図書館ネットワーク研究会では、県内図書館が同一のテーマで展示やイベントを行う「@ (アット) ライブラリー」事業を実施した。前年度からの継続テーマである「徳川家康～ドラマ放送記念!」には 35 館が参加し、48 イベントの登録、

2023年度のテーマとして選定した「球技に挑戦！」には26館が参加し、28イベントの登録があった。

② 愛知図書館協会

愛知図書館協会は、1950年に図書館事業の進歩発展を図り、教育と文化の振興に寄与することを目的に設立された。日本図書館協会の団体会員でもある。主な事業は県内図書館職員・関係者向けの研修会の企画・実施である。機関誌として『愛知図書館協会会報』（1950.1～）を発行している。

会員には、施設会員、個人会員及び賛助会員の3種がある。2024年4月1日現在、施設会員93機関、個人会員67人及び賛助会員9団体が加入している。

③ 東海北陸地区公共図書館協議会

東海北陸地区における公共図書館事業の振興及び相互の協力を図ることを目的としており、東海北陸地区6県の県立図書館と1政令指定都市（名古屋市）の図書館が加盟している。主な開催事業は、加盟館の館長が参加する会議と、東海北陸地区の公共図書館職員を対象とする公共図書館研究集会である。2023年度には、館長会議を9月26日（火）にオンラインで行い、研究集会を2023年10月19日（木）に石川県の担当により集合研修及びオンライン同時配信で開催した。

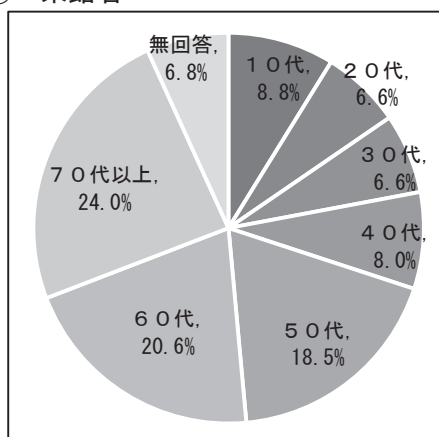
④ 東海地区図書館協議会

愛知、岐阜、三重、静岡県公共図書館と同県に所在する大学図書館の館種を超えた連携・協力を進めるため、2004年11月1日に設立された。事務局を名古屋大学附属図書館に置いている。現在の参加館数は87館（公共63館、大学24館）で、当館は公共図書館の理事館5館の一つである。

VII 2023年度来館者アンケート

当館では、来館者の利用行動や評価、要望を知るため、2005年度から来館者を対象にアンケートを行っており、2023年度は2024年2月16日（金）と17日（土）に実施した。2日間で1,000枚のアンケート用紙を中学生以上の来館者に交付し、649枚回収した。結果については、Webサイト「県図書館の発行物」（<https://websv.aichi-pref-library.jp/publish.html>）に掲載している。来館者、利用頻度、来館目的及びサービスの重要度と満足度の概要は、次のとおりである。

① 来館者

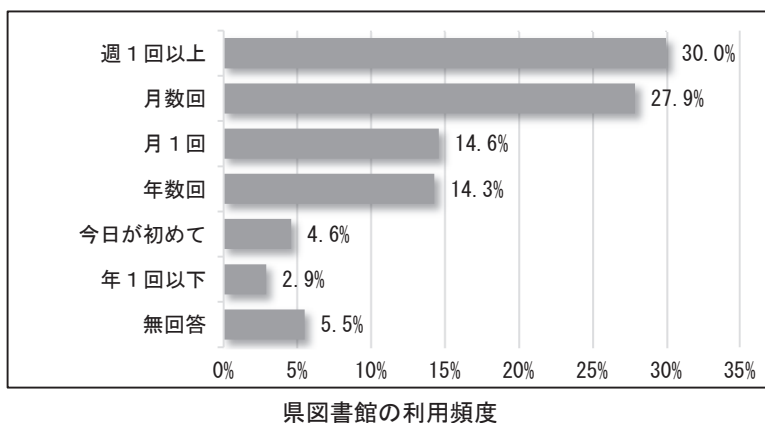


来館者 年代別

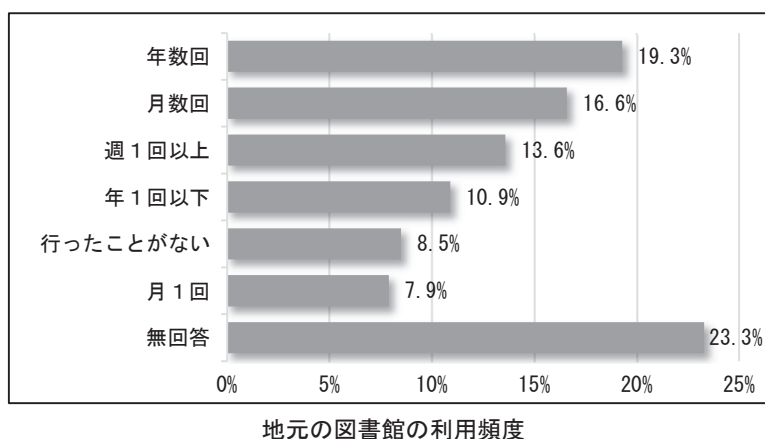
来館者の年代別では、70代以上の割合が最も高く、24.0%である。次いで60代20.6%、50代18.5%と続き、60代以上が来館者の約4割を占める。最も少なかった年代は20代・30代で6.6%であった。

職業別では、「お勤めの方」の割合が最も高く41.4%、次いで「無職」が30.4%であった。学生（中学生・高校大学生・大学院生）の割合は11.1%で、2022年度に比べ1.4ポイント減少した。

② 利用頻度



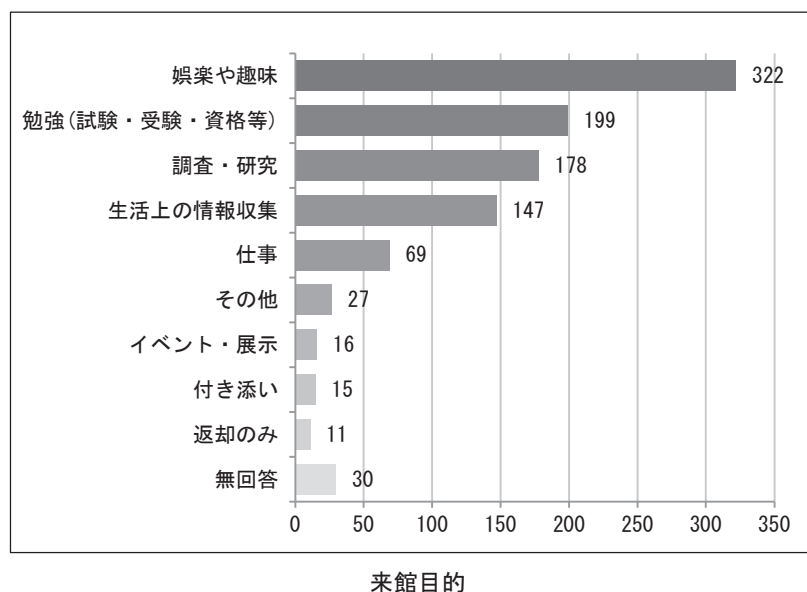
県図書館の利用頻度は、「週1回以上」の割合が30.0%で最も多く、次いで「月数回」が27.9%「月1回」が14.6%「年数回」が14.3%と続く。月1回以上利用する人が全体の約7割であった。一方、地元の図書館の利用頻度は、「年数回」が19.3%で最も多く、次いで「月数回」が16.6%、「週1回以上」が13.6%であった。



また、県図書館の利用頻度別に地元図書館の利用頻度を見ると、月1回以上県図書館を利用している人の4割以上が、月1回以上地元の図書館を利用している。

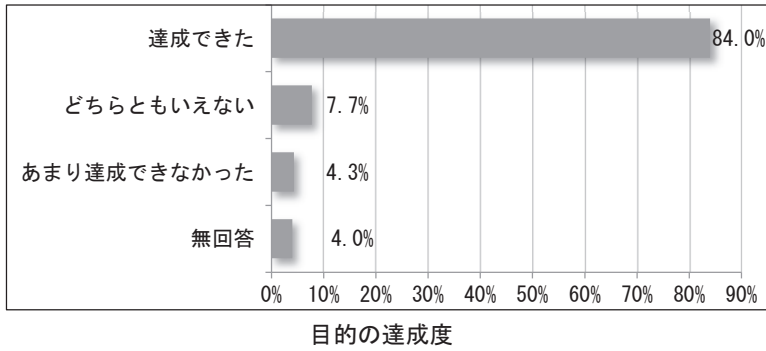
なお、地元の図書館ではなく県図書館を利用する理由、地元の図書館と併用する理由を見ると、「蔵書が多い、本の種類が豊富」、「職場や自宅に近い、交通の便が良い」、「地元の図書館と使い分けている」という意見が多い。また、「閲覧席が多い」、「広い、環境が良い、落ち着いて利用できる」、「県図書館にしかない資料を利用するため」、「専門書、地域資料、新聞・雑誌が充実している」などの意見もあり、当館の特徴が活かされていることが分かる。

③ 来館目的（複数回答可）



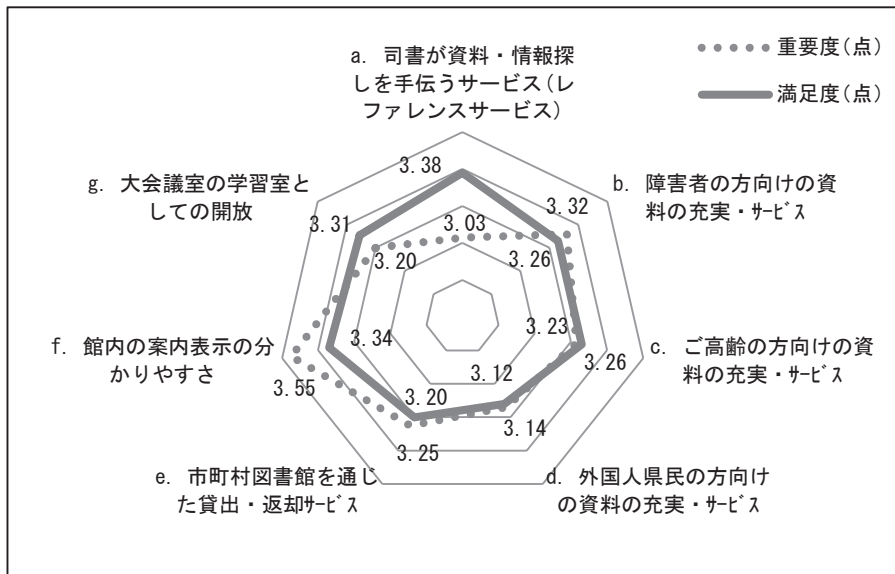
来館者全体でみると「娯楽や趣味」が第1位で全体(1,014件)の31.8%(322件)を占める。次いで「勉強」、「調査・研究」、「生活上の情報収集」と続く。

年代別でみた来館目的の特徴的な回答は、20代以下は「勉強」の割合が高く、30代及び30代以上は「娯楽や趣味」が第1位となっている。40代の1位、60代、70代の2位は「調査・研究」であった。



なお、「来館の目的を達成されましたか」という項目については、84.0%が「達成できた」と回答している。

④ サービスの重要度と満足度 *4段階評価（中心値は2.5）

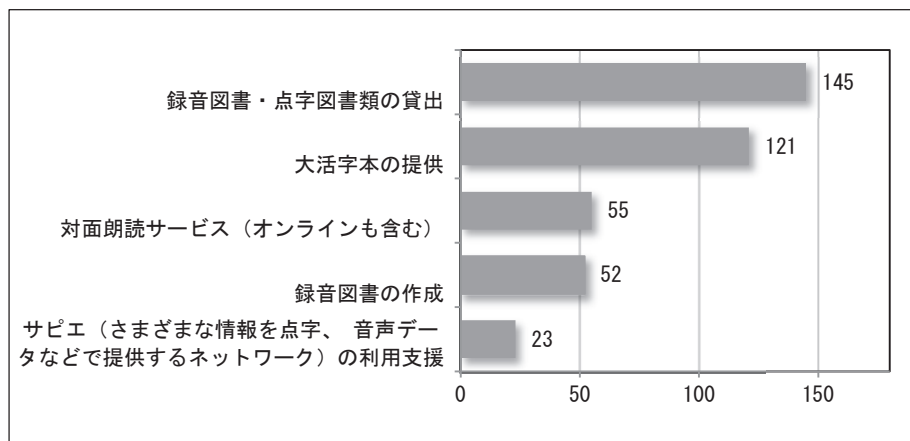


重要度が最も高かったのは「館内の案内表示の分かりやすさ」で3.55点、満足度は3.34点で、さらに改善していく余地がある。

一方、「レファレンスサービス」は、重要度3.03点に対して満足度が3.38点で、重要度に比して満足度が高い結果となった。

⑤ 愛知県図書館の視覚障害者の方などへのサービス

ア 知っているものすべてに○



愛知県図書館が行っている視覚障害者の方などへのサービスの認知度については、最も高いのが「録音図書・点字図書類の貸出」で、次が「大活字本の提供」であった。

愛知県図書館が行っている視覚障害者の方などへのサービス

イ 愛知県図書館の視覚障害者の方などへのサービスを、広く知ってご利用いただくためにはどうすればよいか（自由記述）

【いただいた主なご意見】

- ・積極的な広報
- ・SNS 等での発信
- ・館内掲示・表示
- ・施設・学校・職場等での広報
- ・Web ページの活用
- ・館内放送
- ・TV・ラジオ（番組・宣伝）
- ・視覚障害者支援室の場所（案内含む）
- ・関連機関との連携
- ・関連団体等との意見交換
- ・公共交通機関（駅含む）での広報
- ・県・市町村広報
- ・館内音声案内
- ・Web ページリーダビリティの向上
- ・家族・知人からの口コミ
- ・晴眼者との交流・サービス体験会
- ・図書館利用案内に掲載
- ・新聞（県民版等地元記事）
- ・図書館利用体験（小学生がベター）
- ・学生等の協力を得る
- ・書店等図書に関連する場所での広報
- ・アンケート（晴眼者以外が知る機会）